



幼児発達支援室ひよこでは、発達に課題のある未就学児のお子さんの療育を行っています。

今年度最初のひよこのみずあびは、ことばの発達について特集しました。ひよこのみずあびは年3回発行予定で、子育てについての様々な情報を発信していきたいと思います。ひとりで悩まず、お子さんに合った子育てを考えるきっかけにしていきたいと思います。

ことばの発達について

幼児発達支援室に一番多く寄せられるのは、「なかなかことばが出てこない…」「ことばは出ているけど、数が増えない…」など、ことばにまつわる質問や悩みです。今回はことばの発達について特集しました。

ことばを教えようと一生懸命になると、お子さんにたくさんのことばを投げかけてしまいがちになります。でも、「しゃべって」と言っても、お子さんは急にはしゃべりません。ことばには発達が関係しています。生活に必要な行動を1つ1つ丁寧に行うこと、生活リズムを整え活気のある一日を送ること、たくさん遊ぶこと…み～んなことばの発達に関わりがあります。

ことばは表出することよりも、理解することの方が先に発達します。ことばの理解を促すために、話しかけるときは以下のことを意識していきましょう。

① ゆっくり話しかけましょう

大人の会話のスピードには子どもの理解はついていきません。

② 短い文章で話しかけましょう

子どもの会話が単語中心の場合、単語または2語文程度のことばで話すようにしましょう。

③ ことばに身振りを加えてみましょう

“百聞は一見にしかず”ということば通り、目で見た情報は聞いたことと比べると、とても理解しやすいです。ことばに身振りや指さしを加えて伝えてみましょう。これからすること、行く場所など写真で見せるのもよいですね。

④ 生活の中で具体的なことばを聞かせていきましょう

遊びや生活の中で必要なことばを、お子さんの理解に合わせて聞かせていきます。最初は言われたことを理解して行動できるかな？を大切にしましょう。

◎ 身振りでのコミュニケーションを促していきましょう

声を出すことや話したりすることは、他者からの働きかけで行うことはできません。身振りはどうでしょうか？大人が手を取れば“ちょうだい”の身振りをさせることができます。誰かに何かを一番伝えたい場面は、要求を伝えたいときです。まずは、身振りで要求を伝えるということに取り組みましょう。何かを伝える行動をした→要求を満たすことができたという経験から、身振りやことばを使うことの便利さを感じさせていきましょう。



◎ 声を出すことを促しましょう

様々な場面で声を出す経験をしましょう。くすぐりやたかいたかいなどのスキンシップ遊びを行い、心地よいかかわりの中で、声を出す経験をたくさんしていくのもおすすめです。楽しくて思わず声が出てしまうようなかわりや、大人と声を出して遊ぶと面白いという経験が、声をたくさん出すことにつながります。

◎ 音声やことばの模倣を促しましょう

発声や発語が出てきたら、お子さんが何を言おうとしているのかを大人が予測し、その場面で言うことばを、代弁して聞かせましょう。例えば車を指さし、喃語で伝えようとしていたら、「そうくるま」と、声を出したことを受けとめ、正しい発音で聞かせます。興味があるときに繰り返し聞くことで、目を見た車が『く る ま』という音とつながってきます。

大人がことばを言うときの口の形を模倣したり、音声やことばの模倣をしたりすることを促していきましょう。



食事の場面も大切にしましょう

食事は、さまざまな食感を持った食べ物を口の中で処理するため、口や口の周りの筋肉を複雑に動かす必要があります。発声・発語のときにも必要な筋肉のため、よく噛んで食べるということは、口腔機能の発達を促すとともに、言語機能の発達を促す意味でも大切な場面になります。

うがいもガラガラうがいとブクブクうがいでは、筋肉の使い方が異なります。生活をひとつひとつ大事に進めていくことが、ことばの発達を促していくことになります。

発声や発語には呼吸を意識的に出すことが必要です。ラッパを吹くことや、シャボン玉で遊ぶこともトレーニングになります。



機関紙『ひよこのみずあび』は
足立区（公式）ホームページ（<http://www.city.adachi.tokyo.jp>）
幼児発達支援室ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）
にアクセスすると掲載されています。

